

専門学校 愛知保健看護大学校
保健看護学科

二〇二五年度 入学試験（一般前期）

国語総合（現代文）

注 意

1. 問題は全部で6ページあります。
2. 解答はすべて解答用紙に記入して下さい。
3. 試験終了後、問題用紙、解答用紙、全て回収します。採点対象となるのは、
解答用紙です。

問題一 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

私たちの使う日本語を、その構文の面から見ると、和語を中心とした動詞構文と漢語が主役を占める名詞構文とに大別される。そして、動詞構文はおもに日常的な行動や会話など、具体的な場面で使われるのに対し、名詞構文は主として具体的なものを越えた一般的・概念的なものの表現に活用される。

これは、二つの構文の(ア)ユウレッツや難易にかかわることではない。すなわち、これらは、いずれも私たちの生活の中で必要な表現方法なのであって、どちらがよい、どちらが悪いというものではないのである。例えば、哲学者の文章などには、

事故は人間が本来潜在的に負うている「死への存在」を直ちに顕在化させる危険を最大限にもつ。運転者の容貌形相が虚無的であるのは当然であろう。

などのような表現がとられることも多い。一見、漢語(イ)カタの堅苦しい表現と思われるが、こうした思弁的な内容の表現には、やはりこれが適した言い方なのである。いま、試みにこの前半を、

A 構文のやさしい言い方に変えると、ほぼ次のようになる。

人間はいつも死と隣りあわせに生活している。私たちは(エ)ふだんあまりそのことに気が付かないで暮らしているが、交通事故が起こって人が死んだりすると、私たちは改めてそのような人間のはかなさやもろさに気付かされる。事故とはそういうもののなのだ。倍以上の字数を費やして、しかも、もとの文の意図が十分に伝えられているとはいいがたい。こうしてみると、名詞構文というものの有効性もやはり無視できないものがあると思われる。

ただし、(エ)これと次のようなものを同一視することは許されない。

これ(＝専攻を同じくする学生の社会)を構成する個々の人間に何らかの共通の了解が存在するとき、この社会は(ウ)エンカツに機能する。

これはつまり、「みんなが仲よくすれば、すべてうまくゆく」ということに過ぎない。あるいは、

アルバイトにおける私の態度は、勉強姿勢よりも熱が入る。

などというのも、「私は勉強よりもアルバイトに熱心になっている」と言ったほうが、はるかにわかりやすいし、すなおな言い方である。

このように、ごく日常的なあたりまえなことに、肩肘張^{ひじ}って漢語を多く使った名詞構文を用いるのはいかがと思われる。英語やドイツ語など西欧系の文章には B 構文が多く、その構文法が翻訳などを通じて日本語にも持ち込まれているのは事実である。ために学術書などには自然そのような表現が多くなり、若い学生諸君がそれに親しむのは自然な勢いであろう。むしろ、こういう表現が身に付いているのは、それだけ勉強していることの証拠だといえるかもしれない。だから、論理的・思弁的な内容の論文やレポートを書くときには、

漢語や C 構文も大いに活用してよい。ただし、⁽²⁾ それほどの内容も伴わないことを、 ことごとしく言いなすと、かえって空々しさが目につき、人にあなどられることになる。要は、時・場面・内容などをよく考え、それぞれにふさわしい構文なり用語などを選ぶことが大切である。

とはいっても、日常的なもの、生活的なものはすべて和語で表現できるかといえ、そうはいかない。漢語的な表現というのは、私たちの生活の中にずいぶんと深く根を下ろしているからである。その中でも、

(エ) シュジャ選択は君に任せる。

とか、

おほめにあずかって欣快至極に存じます。

とかいうようなのは、それぞれ、「どっちを選ぶかは君の勝手だ」「ほめられたのでうれしくてたまりません」のように言えるし、またそのほうがすなおでよいときもある。しかし、

彼は喜怒哀楽を面に表さない。

というのを、「あいつは、めったに気持ちを顔に出さない男だ」と言っては、やはり少し不十分だ、という気持ちが残る。「彼」の克己心の強さを表現するものとしては、⁽³⁾ 後者は前者に及ばないようだ。また、

私は絶体絶命のところに追い込まれた。

というのも、「私はとても助からない(または、逃げられない)ありさまだ」と言い換えたところで、もとの漢語の持つ語感^びは表し切れないであろう。まして、

彼女は八面六臂の大活躍だった。

とか、

それは起死回生のホームランだった。

などの形容になると、これを適当な和語に置き換えて表現するのはむずかしい。一般に和語は、そのような誇張した表現に適する語彙をあまり持ち合わせていないのである。

相原林司『漢語のすすめ』より

問一 傍線(ア) (エ) のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 空欄A Cには、「名詞」または「動詞」のいずれかが入る。それぞれの空欄に適当なものを選んで書きなさい。

問三 傍線(1) は、前の例文中のどの部分をやさしく言い換えたものか。抜き出して書きなさい。

問四 傍線(2) とはどういうことか。同じ段落中から十五字以内の表現を抜き出して書きなさい。

問五 傍線(3)はどのようなことを言っているか。最適なものゝ次の(ア)ゝ(エ)の中から一つを選び、記号で書きなさい。

(ア)「気持ちを顔に出さない」という表現より「喜怒哀楽を面に表わさない」のほうがいい。

(イ)「喜怒哀楽」という表現があるのだから、「気持ちを歌に出さない」という必要はない。

(ウ)「気持ちを顔に出さない」と比べると、「喜怒哀楽を面に表わさない」は不十分な表現である。

(エ)「喜怒哀楽」「面」と言うよりは「気持ち」「顔」と言うほうがずっと親しみやすい。

問六 傍線(x)のように筆者が言うのはなぜか。次の説明の空欄(i)ゝ(v)に入れるのに最適な漢字二字の言葉を、それぞれ文中から抜き出して書きなさい。

用語や構文には時・場面・内容によってそれぞれにふさわしいものがあり、i 的・ii 的な内容の表現にはiii を多く使った名詞構文が有効であるが、iv 的な内容の表現にはv を中心とした動詞構文のほうがすなおでわかりやすいと考えているから。

問七 問題文についての説明として不適切なものを次の(ア)ゝ(エ)の中からすべて選び、記号で書きなさい。

(ア) 名詞構文と動詞構文の例文をあげて、最後にどちらの構文にも欠点があると結論づけている。

(イ) 日本語における漢語と和語、名詞構文と動詞構文の巧みな使い分けを具体的に例示している。

(ウ) 日本語には名詞構文と動詞構文があることを初めに述べ、それぞれの特徴を説明している。

(エ) 名詞構文は複雑な内容に適し、漢語が和語よりもすぐれていることを述べている。

問題二 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

結婚式は五月二十四日の日曜日と決まった。ところが、半月前になって、突然わたしは三十九度の熱を出した。三浦は、

「何も新調しなくてもいいですよ。布団も、*いままで臥ねていたのかまいませんからね」と、言ってくれていたのであったが、それでも、何かと結婚の仕度にわたしはつとめた。

その疲れでもあったろうか、熱はなかなか下らなかった。医師はペニシリンを打ち、クロマイイを与えてくれた。だが依然として熱は下らない。三日たち、四日たつと、わたしは不安になった。結婚式までに後十日しかない。もし熱が下らなかったら……そう思つて、いくら

(ア) アンセイにし、注射を打ちつづけても、依然として高熱である。

文通していた各地の療友からは、連日のように結婚祝や、記念品が届けられる。親戚の者は、三面鏡やタンスを送り届けてくれる。それらの品々に囲まれて臥していると、いつそウ気が(イ)アセった。既に結婚式の案内状は出し終っている。準備はすべて整っているのに、原因不明の熱が幾日もつづく、父も母も、おろおろして来た。

「必要なものは、必ず与えられる」

わたしは、タンスや三面鏡を眺めながら、そう思った。もし、三浦光世との結婚を*神が許してくださるのなら、この品々も与えられなかったであろう。そう思いながらも、熱が十日もつづくと、わたしは、確信がなくなつて来た。後、四日で熱が下つたとしても、とても式を挙げる体力はないだろう。やつぱりこの結婚は、神が許し給わないのかもしれない。わたしは次第に(ウ)ヒカン的になった。

だがそうした中で、ただ一人、三浦だけは平然としていた。

「必ず予定どおり結婚式を挙げられますよ。わたしたちを結び合わせてくださった神を信じましょう」

彼の言葉は確信に満ちていた。役所の帰りに、毎日わたしを見舞いながら、彼は一度も不安そうな顔を見せなかった。

本当に熱は下るだろうか、式は挙げられるだろうか。わたしは信ずることができなかった。二日前になった。父は遂に、遠い地の親戚に、挙式は(エ)エンキの電報を打とうと言い出した。最後の最後まで、わたしは親に心配をかけたわけである。わたしも父の言葉に同意した。しかし三浦は、大丈夫だと言つた。わたしは依然として不安だった。当日になって、わたしが起きられなかったら、結婚式はいつたくなるのだろう。遠くから集まってくれる人たちはどうなるのだろう。考えるほど心配だった。

だが、三浦の確信に満ちた態度は、遂に変らなかつた。そして、事は彼の確信どおりになった。式の前日になって、わたしの熱はうそのように下つた。ペニシリンでも、クロマイでも下らなかつた熱が、けろりと下つてしまつたのである。それは奇跡的でさえあつた。しかも、十何日も熱がつづいたというのに、体のしんまでほぐされたように、疲れはすっかり消えていた。父母は喜んだ。わたしは今更のように(一)自分の不信仰を恥じた。

「確信を放棄してはならない。確信には大いなる報いがもたっている」

と聖書にあるのを、わたしは忘れていたのである。神は、わたしが結婚するために最も必要な「神への全き信頼」を期待されていたのかもしれない。しかしわたしは、その信頼を失つて、ただ思いわずらつてばかりいた。

「すべては、神様の御心のとおりになりますように。(二)人間の目には悪いと見える出来事にも、感謝をもって従うことができますように」

これは、当時のわたしの最も大きな祈りであったはずである。神のなさることに対する従順な信仰、わたしはそれを持っているとうぬぼれていた。それが、この連日連夜の熱によって、もうくも崩れ去っていたのである。^③ わたしはあらためて、神のなさったことに感謝した。そして、結婚を前に、ただ X 的な支度へのみ心を奪われていたことを恥じた。最も大切な神への信頼を忘れて、あわただしく日々を過しているわたしに、神は二週間の原因不明の熱を与えてくださったのである。わたしは、三浦の信仰によりかかって結婚式を迎えるような気がして、心から恥じずにはいられなかった。

三浦綾子『道ありき・青春編』より

註 * いままで臥ていた。筆者は病で長らく療養していた。

* 神。筆者も三浦もキリスト教徒。

問一 傍線(ア) 〱 (エ) のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 傍線(1) とは、筆者がどのように思ったことを指すか。簡潔に書きなさい。

問三 傍線(2) はこの場合どういうことだったのか。次の(ア) 〱 (エ)の中から最適なものを一つ選び、記号で書きなさい。

(ア) 熱がなかなか下がらないこと。

(イ) 神への信仰を忘れてしまったこと。

(ウ) 結婚できなくなること。

(エ) 最後の最後まで親に心配をかけたこと。

問四 傍線(3) とあるが、なぜか。「感謝した」理由を述べた次の文の空欄に入れるのに最適な言葉を文中から五字で抜き出して書きなさい。

自分が持っているとうぬぼれていた神への を、実は十分持っていなかったことに、あらためて気づかせてもらえたから。

問五 空欄Xに入れるのに最適な言葉を、次の(ア) 〱 (オ)中から一つ選び、記号で書きなさい。

(ア) 突発

(イ) 人間

(ウ) 虚栄

(エ) 最終

(オ) 物質

問六 問題文の内容と合致するものを次の（ア）～（エ）の中から一つ選び、記号で書きなさい。

（ア） 神には高熱をもすぐに下げる偉大な力があることを、筆者は今回の体験で最も強く思い知った。

（イ） 筆者は結婚式に遠方から来てくれる人達のことを気づかったため、神への信頼を失ってしまった。

（ウ） 筆者は今回の体験を、自分の神への信頼を確かなものにするための試練だったと受けとめた。

（エ） 三浦は筆者を落胆させまいとして自身の不安を隠し、つとめて確信的な態度を見せ続けた。